九州大学経済学部 同窓会報 第80号

九州大学経済学部同窓会
事務局　〒819－0395
福岡市西区元岡744
　九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560
mail：dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
郵便振替　01750－6－21743

目　次

令和8年度行事予定（総会のご案内）／1

研究院長からのご挨拶　大西　俊郎／2

支部だより
東京支部　事務局長　青柳　未央（平成18年修士卒）／3
関西支部　事務局長　凌　雲翔（平成16年卒）／5
福岡支部　福岡支部事務局
福岡支部忘年会を開催　石橋　知大（令和７年卒）／8
福岡支部交流ゴルフ会 第77回コンペを開催！　髙田　賢一（平成５年卒）／9

リレー随想　北九州市立大学　姉川　恭子／11

人物往来 ～退任　篠﨑　彰彦／12

卒業祝賀会を開催／14

伊東支部長（東京支部）との座談会を開催／16

経済学部同窓会創立50周年記念寄付金
寄付者ご芳名（敬称略）／17

経済学部同窓会会則／18

同窓会歴代会長／20

同窓会からのお願い／20

令和８年度行事予定（総会のご案内）

令和８年度の各支部総会を下記のとおり予定しております。
皆さま、お誘い合わせの上、多数ご参集くださいますようご案内申し上げます。

令和８年度　全国・福岡支部合同総会

日時　令和８年６月22日（月）18：00 ～
場所　八仙閣本店
（福岡市博多区博多駅東２丁目７－27　TEL：092－411－8000）
<お問い合わせ先>　福岡支部事務局　縄田　真澄
公益財団法人　九州経済調査協会内
TEL：（092）721－4900
E-mail：soumu-02@kerc.or.jp

令和８年度　関西支部総会

日時　令和８年５月23日（土）15：00 ～
場所　ハートンホテル北梅田
（大阪市北区豊崎３－12－10　TEL：06－6377－0810）
<お問い合わせ先>　関西支部事務局
凌　雲翔　E-mail：yunxiang98@live.jp
寺下　進　E-mail：banana6742@gmail.com

令和８年度　東京支部総会

日時　令和８年７月７日（火）18：00 ～
場所　喜山倶楽部
（東京都千代田区一ツ橋２－６－２　TEL：03－3262－7661）
<お問い合わせ先>　東京支部事務局　青柳　未央
E-mail：aoyagimio0528@gmail.com

令和８年度　広島地区九大法・経同窓会総会

日時　令和８年11月～ 12月開催予定
場所　未定
<お問い合わせ先>　広島地区九大法・経同窓会事務局
河岡　雄輝
TEL：（080）9958－0700
E-mail：yuki.kawaoka.pi@hd.energia.co.jp

研究院長からのご挨拶

経済学研究院長
大西　俊郎

2026年４月から2027年３月までの１年間の任期で、経済学研究院長として再任されました。研究院のさらなる発展に向け、引き続き誠心誠意努めてまいります。新しい部局執行部は、大坪稔教授（副研究院長）、大石桂一教授（産業・企業システム部門長・経済システム専攻長・経済・経営学科長）、瀧本太郎教授（経済工学部門長・経済工学専攻長・経済工学科長）、前田真一郎教授（国際経済経営部門長）、目代武史教授（産業マネジメント部門長・産業マネジメント専攻長）、そして大西の６名で構成されます。新執行部一丸となり、経済学部・学府・研究院の発展に尽力していく所存です。

本学の国際卓越研究大学への申請は、残念ながら今回は認められませんでした。次回の申請に向け、構想をさらに深めていく必要があります。認定候補となった京都大学では、デパートメント制への移行計画が高く評価されました。本学でも同制度への移行が検討されており、経済学研究院としても新しい方向性に沿った組織改編を進めてまいります。特に、30代・40代の研究者が研究に専念できる環境整備は喫緊の課題と考えています。

2026年10月には赤司浩一副学長・特任教授が新総長に就任され、新たな九州大学執行部が発足します。経済学研究院としても足並みをそろえ、本学のさらなる発展に貢献してまいります。

以下に、経済学研究院・学府・学部が取り組む特色ある教育・研究活動をご紹介いたします。

経済学部グローバル・ディプロマ・プログラム

2018年４月に創設され、グローバル人材の育成を目的とするプログラムです。２年次進級時に意欲ある学生を約10名選抜し、短期語学留学・長期交換留学・外国語による卒業論文執筆など、挑戦的なカリキュラムを課しています。2025年度には第５期生が６名修了しました。

人社系副専攻プログラム

学生が専門性を深めつつ、他学部の授業を体系的に学ぶことで、確固たる専門性と幅広い教養を兼ね備えた人材を育成するプログラムです。横断型と専門領域型の２種類があり、2018年に「文系４学部副専攻プログラム」として開始されました。2023年度からは工学部建築学科が参画し、現在の名称となっています。2025年度の経済学部における修了者は10名でした。

大学院教育の国際化

経済学府（大学院）は、日本語コース、中国人民大学とのダブルディグリー・プログラムに加え、英語による授業・論文指導で学位を取得できる３つの国際プログラム（公共経済学、金融・企業経済学、経営・会計学）を運営しています。学府は学部に比べて早くから国際化が進み、世界各地から集まる優秀な大学院生にグローバル・スタンダードの教育を提供しています。

2024年６月、福岡県および福岡市は政府の国家戦略特別区域諮問会議により金融・資産運用特区に選定されました。Team Fukuokaとして外資系金融機関の誘致が進む中、経済学府としても高度専門人材を送り込むことで連携を深めたいと考えています。福岡からグローバル金融へと直結する新たな進路が開かれつつあります。

マス・フォア・イノベーション連係学府

文部科学省の2020年度「卓越大学院プログラム」に採択された博士人材育成プログラムです。経済学府経済工学専攻が、数理学府およびシステム情報科学府と連携して運営しています。５年間の修士博士一貫教育で、経済工学専攻の合格者から定員１名を選抜します。2025年度は優秀な志願者が多く、２名が入学しました。

社会人教育

産業マネジメント専攻は、芸術工学府およびロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センターと連携し、2021年度に「デザイン×ビジネス×アントレプレナーシップ専修トラック」を設置しました。2025年度は３名が修了しています。

また、経済学府が責任部局として運営してきた履修証明プログラム「科学技術イノベーション（STI）政策人材育成プログラム」は、地球社会統合学府の新学位コースとして発展的に継承されることとなりました。科学技術イノベーション政策教育研究センターは2025年度末をもって廃止されます。

研究活動の推進

本学のもう１つの重要な使命である研究活動についてもご紹介いたします。加河茂美教授・藤井秀道教授を中心とするグループは、環境・エネルギー分野のトップジャーナルにおいて活発に論文を発表し、世界をリードしています。また、浦川邦夫教授を中心とするグループは、福岡県から大型の受託研究を請け負っており、証拠に基づく政策決定（Evidence-Based Policy Making, EBPM）の実践と言えます。

指定国立大学法人である九州大学は、次回のチャレンジで国際卓越研究大学に選定されることを目指します。世界の有力大学と伍して戦える大学となるべく、研究力強化のための予算拡充や、国内外で高く評価される研究成果の積極的な発信を進めてまいります。また、「人社系協働研究・教育コモンズ」を通じた学際的研究も引き続き推進します。

経済学部・学府・研究院が今後ますます発展し、有為な人材を輩出し続けるためには、同窓会の皆さまのご支援が不可欠です。次代を担う後輩たちのために、より一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

支部だより

昨年度も東京支部では、さまざまな活動を行い、多くの皆さまにご参加いただき、活気あふれる一年となりました。

本号では、今年の七夕総会のご案内とともに、交流会や理事会の様子をお届けします。

東京支部

１．東京支部七夕総会のご案内

昨年は創立50周年記念と併せて開催し、100名を超える参加で大いに盛り上がりました。会場いっぱいに広がった再会の笑顔と新しい出会いの熱気は、同窓会のつながりの強さを改めて実感するとともに、支えてこられた諸先輩方の歩みの上にあるものだと感じさせられるひとときでした。その勢いを受けて、今年も七夕総会を開催いたします。

【日時】2026年７月７日（火）18：00～21：00
【会場】喜山倶楽部
（東京都千代田区一ツ橋２丁目６－２）
【スケジュール】
18：00　経済学部東京支部総会
18：15　基調講演：サッポロビール会長　野瀬裕之さん
19：00　懇親会
※途中参加も可能です
【会費】6,000円
（2026年卒業の方は無料）

↓申込みはこちら↓
https://x.gd/BP8Hy

今年の基調講演は、東京支部副支部長であり、サッポロビール会長を務められている野瀬裕之さんをお迎えします。経済学部ご出身の経営者として第一線を牽引されてきたご経験に基づくお話は、同窓会ならではの貴重な機会です。同窓会の理事会においても具体的な視点から助言をくださるなど、行動で示される姿勢は多くの理事にとって学びとなっています。

七夕の夜に、同じ経済学部で学んだ卒業生が集まり、それぞれの現在地を持ち寄る時間になればと思います。

経済学部の卒業生であれば、関東在住でなくてもご参加いただけます。どうぞお気軽にご参加ください。

２．卒業生と現役生の交流会＆東京支部全体忘年会開催！

例年、経済学部の鷲崎先生のゼミによる東京合宿に合わせて開催してきた現役生と卒業生の交流会。今年はその枠を大きく広げ、「卒業生と現役生の交流会＆東京支部全体忘年会」として開催しました。

参加者は約60名。会場に入った瞬間から、世代を超えた対話が自然と始まっていました。同じゼミの先輩後輩が初めて顔を合わせる場面や、同じ業界や

企業で働く同窓生との出会い、学生にとっては志望する業界の先輩方との交流など、同窓会ならではの温かな空気が広がっていました。

現役生から卒業生に対しては、「学生時代にやっておくべきことは何か」「進路はどのように決めたのか」といった率直な質問が次々と投げかけられました。

引率された鷲崎先生からは、「近年の就職活動はオンライン中心で進み、OBOG訪問の機会も減っている。だからこそ、直接話を聞く場があることは大きな意味を持つ」とのお話がありました。多様な業界や組織で活躍する卒業生との出会いは、学生にとって視野を広げる貴重な機会になったのではないかとのことでした。

終盤には世代を超えた一体感が生まれ、大いに盛り上がる一夜となりました。同窓会は、過去を懐かしむ場であると同時に、未来への選択肢を広げる場でもあることを改めて実感しました。

３．理事会レポート

東京支部では、年に４回ほど理事会を開催しています。総会や交流会の企画運営について意見を交わしながら、よりよい同窓会のあり方を模索しています。会議は和やかな雰囲気ですが、議論は真剣そのもの。世代も業種も異なる理事が集まるからこそ、多様な視点からの意見が飛び交い、新しいアイデアが形になっていきます。

２月の理事会では、昨年度の活動を振り返りながら、次年度のイベントをさらに充実させるための議論を重ねました。

そして会議後は新年会へ。今回の会場は、なんとサイゼリヤでした。理由は、支部長・副支部長の中に「サイゼリヤ未経験」の方がいたからです。

せっかく訪れるならと、理事会の最後にサイゼリヤの経営について簡単な事前学習を行いました。「包丁のないキッチン」に象徴される徹底した効率化、工程の標準化や秒単位で設計されたオペレー

ション、製造直販モデルなどを通じ、低価格は気合ではなく構造の結果であるという視点を共有しました。創業者が物理学にヒントを得たと語る経営思想にも触れ、経済学部らしい学びの時間となりました。

実際に店舗を訪れると、初めて足を踏み入れたメンバーからは料理やワインのコストパフォーマンスに驚きの声が上がり、食も進み、会話も弾むにぎやかな新年会となりました。

4．イベント情報の連絡ツール、LINEオープンチャットへの登録のお願い

現在、イベント情報は同窓会報やメールを中心に発信していますが、転職や引っ越しで情報が届かないケースも増えています。そこで、LINEオープンチャット機能（個人LINEにはつながりません）を利用して、発信しています。

イベント情報を確実にお届けするためにも、ぜひご登録ください。より多くの方とつながれることを楽しみにしています。

↓登録はこちら↓

5．サポーター制度のお知らせ

同窓会の運営やイベントを可能な範囲で手伝ってくださる方、理事と交流してみたい方、同窓会活動に少し関わってみたい方など、大歓迎です。理事会後の懇親会には、サポーターの参加も歓迎しています。

理事は難しくても、「できることを、できるときに」。

そのような関わり方ができるのが東京支部サポーター制度です。

同窓会は、参加するだけでなく、少し関わることでさらに面白くなります。ご興味を持たれた方は、九州大学同窓会事務局メール（kyukeiobog.tokyo@gmail.com）までご連絡ください。

【東京支部事務局長　青柳（旧姓：井手）未央（平成18年修士卒）】

関西支部

テーマ　関西支部勉強会（読書会）の開催

こんにちは。関西支部の事務局長代理の寺下です。2025年から勉強会と題して、トライアルで読書会を３回実施しました。2025年８月８日（金）、10月17日（金）、2026年１月９日（金）と週末に関西支部経済学部理事や時には九州大学法学部理事も交えて、課題図書を１冊読み、自由に議論や感想を言い合う勉強会を開催しました。

各会５～６名集まり、マネーリテラシーを高める本やAI関連や半導体業界に関するビジネス書から旧ソ連を舞台にした小説を各人、準備期間２か月間で１冊読み、当日は２時間ほどで、本で感銘を受けた個所や、生き方や考え方の参考になる箇所を言い合って、自分にない視点や経験談を得たり、自分では普段読まないであろう本、話題の本を読んでいくということを行いました。

理事の方々からも「脳のしわが広がった」、「読書習慣がつきそう」、「小説なんて十年ぶりぐらいに読んだ」、「勉強になった、面白かった」等々好評いただけています。

主催者側の立場としては、単に読むのではなく、本に関することを調べながら参加者に共有することで議論が活発になったり、教養が広まっている実感があり、単に本を読む以上に知識がついたり、印象

左から安藤副支部長、清丸支部長、筆者、平山会計、撮影は凌事務局長。お酒を飲みながら、気楽に行ってます（笑）

として記憶に定着しているのもやって良かったなと感じています。

これからも（読書会を）やろうという好評の声もいただき、主催の立場でも一人で本を読むより、他の人を巻き込んで感想を言い合うことで、視野が広がったり、読んでいて気付かなかった箇所がわかったり、本選びのアンテナが広がったり、読書仲間が増えて楽しく活動ができています。おかげで３回実施することができました。現在は大阪オフィスで実施してみたり、オンラインで開催してみましたが、今度は居酒屋など飲み会の場で自由に話し合うなども楽しくできるのかなと、想像を膨らませています。

学生時代のゼミナール形式の授業での輪読が楽しく、学生時代にはゼミ以外での読書会にも参加しており、学生時代にやってみたかったことではあったものの、やれずじまいでしたが、社会人になって実現できて良かったと感じています。

今後は理事以外の多様な業界・職種の方も交えて、さらに視野が広がるような勉強会にしていきたいと思います。また、読書会だけでなく、他の方法での勉強会もしていければと考えています。

忙しい中読書や参加に時間を割いていただいている理事の方にこの場で改めて感謝の意を表したいと思います。

本好きの方はもちろんのこと、そうでなくても久しぶりに本を読む習慣を身につけたいとか、視野を広げたい、お勧めしたい本がある、知り合いを増やしたいとかでもいいので参加を募集していますので、関西支部にご連絡いただけたら幸いです。

秋の見学会（令和７年11月15日実施）報告

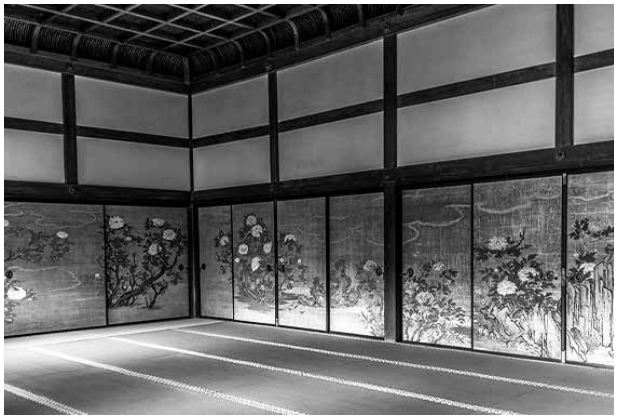
関西支部では、毎年11月頃に秋の見学会を実施しており、その年ならではの名所や見どころを訪ねながら、同窓生同士の交流を深めています。関西には数多くの歴史的名所や観光地があるにもかかわらず、意外と足を運ぶ機会が少ないのも実情であり、地域の魅力を改めて知る貴重な機会ともなっています。

本年は紅葉の名所として知られる京都・嵯峨嵐山の大覚寺を、総勢16名で訪ねました。大覚寺は、平安時代初期に嵯峨天皇の離宮として建立された約1200年の歴史を持つ寺院で、明治初頭まで歴代天皇や皇族が門跡（住職）を務めた格式高い門跡寺院です。また、いけばな発祥の「花の寺」としても知られ、「いけばな嵯峨御流」の総司所（家元）でもあります。さらに時代劇やドラマのロケ地としても広く知られています。

当日は、阪急嵐山駅からバス、またはJR嵯峨嵐山駅から徒歩で大覚寺前に集合し、参拝口ではなく明智門から見学を開始しました。僧侶の方から丁寧な解説をいただきながら、寺内を巡りました。

この明智門は、明智光秀の居城であった亀山城の一部を移築したものと伝えられており、多くの時代劇の撮影に使用されています。特に「必殺仕事人」など必殺シリーズでは南町奉行所として登場し、中村主水が出入りする門として親しまれている場所でもあります。

寺内ではまず、お抹茶とお菓子をいただきながら当日の行程について説明を受け、その後、正寝殿、宸殿（しんでん）、心経前殿、名宝展、安井堂、五大堂などを順に案内していただきました。その一部



をご紹介します。

宸殿〔重要文化財〕

江戸時代、後水尾天皇から下賜された寝殿造りの建物で、徳川二代将軍秀忠の娘であり後水尾天皇の女御であった東福門院和子の御殿として使用されたものです。妻飾や破風板、天井には美しい装飾が施され、正面には御所の伝統にならい「右近の橘・左近の梅」が配置されています。牡丹の間と紅梅の間の襖絵「牡丹図」「紅梅図」は狩野山楽の筆によるものです。

村雨の廊下宸殿と心経前殿を結ぶ回廊で、縦の柱を雨、折れ曲がる回廊を稲光に見立てて「村雨の廊下」と呼ばれています。高貴な方が通る際の防犯上の配慮として天井は低く造られ、床は鶯張りとなっています。

心経前殿

大正14年（1925年）に建てられた建物で、大正天皇即位の際の饗宴殿を移築したものです。勅封心経殿の前殿であることからこの名があり、嵯峨天皇、弘法大師（秘鍵大師）、後宇多法皇、恒寂入道親王の尊像を祀ることから「御影堂」とも呼ばれています。

五大堂

江戸時代中期（天明年間）創建で、現在の大覚寺の本堂です。不動明王を中心とする五大明王を祀っています。大沢池のほとりに建ち、池に張り出す観月台からは大沢池の美しい景観を望むことができます。

昼食は境内で鉄鉢料理をいただきました。鉄鉢とは僧侶が食物を受けるために用いた鉄製の丸い鉢の

ことで、その形を模した器に季節の食材を盛り込んだ精進料理です。当日は急きょ参加者が１名増えたため、僧侶の方が召し上がる予定のお食事を分けていただくという心温まる場面もありました。午前中の見学で感じた日本の美や精神文化について語り合いながら、大学時代の思い出や近況報告に花を咲かせ、和やかな時間を過ごしました。

昼食後は、境内東側に広がる大沢池を散策しました。嵯峨天皇が中国の洞庭湖を模して造らせたとされる日本最古の人工庭園で、池の周囲には桜や楓など約700本が植えられています。紅葉は始まりかけの時季でしたが、静かで優雅な景観を楽しむことができました。

大沢池の散策で見学会は終了し、ご案内いただいた僧侶の方にお礼をして解散となりました。今回は僧侶の方の説明により、より詳細にそして深く大覚寺の歴史を体感することができ、観光客で大変混雑して騒がしい嵯峨嵐山エリアでありながら、静寂で心落ち着く大覚寺を堪能できたと感じております。

毎年趣向を凝らした見学会を実施しております。関西にお住いの同窓生の皆さま、是非一緒に見学会にご参加いただき、関西を楽しみ、同窓生同士の交流を図っていただきたいと思います。

【報告者：谷村　副支部長、凌　事務局長】

福 岡 支 部

西鉄イン福岡にて福岡支部忘年会を開催
～令和７年12月16日（火）

西日本鉄道株式会社　人事部
石橋　知大氏
2025(令和７)年卒

皆さまはじめまして。昨年４月に西日本鉄道に入社しました、2025（令和７）年度卒業の石橋と申します。新入会員なので、忘年会への参加はもちろん初めての機会でありましたが、栄えある福岡支部長賞に当選いたしまして、九州大学経済学部同窓会員として非常に幸先の良いスタートを切ることができたと感じております。さらに、開会前にはまったく予期していなかった副賞（忘年会の原稿執筆）も賜りましたので、僭越ながら当日の様子と感想を当紙面に記させていただきます。

今年度の忘年会は、西日本鉄道が幹事社を務めさせていただきました。昨年度の忘年会も、幹事社でありましたふくおかフィナンシャルグループの工藤先輩が福岡支部長賞に当選されたということで、大変恐縮ではございますが、幹事社員が福岡支部長賞に当選するジンクスを引き継ぐ形となりました。

さて、当日は1967（昭和42）年卒業から2025（令和７）年卒業までの総勢118名が集まり、橋本福岡支部長による開会のご挨拶と、道永同窓会長による乾杯のご発声を皮切りに、会場の熱気は一入（ひとしお）でした。世代を超えた温かい交流が続き、さらにはテーブルをまたいだ歓談や名刺交換が行われ、昔話や近況報告で時間が過ぎていきました。

そして中盤には、毎年恒例とのことですが、皆さまお待ちかねの大抽選会が行われ、会場は一層の盛り上がりを見せました。今年度も多くの方々に多数の魅力的な賞品をお寄せいただきました。御礼とともに、下記にご協賛いただいた企業・団体をご紹介

道永同窓会長（左端）による乾杯の発声

いたします。

・RKB毎日放送
・九州大学
・九州電力
・西部ガスホールディングス
・如水庵
・西日本鉄道
・西日本フィナンシャルホールディングス
・ふくおかフィナンシャルグループ

会も終盤に差し掛かると、参加者全員で「松原に」を力強く合唱し、続けて綺麗な夜景とともに、閉会のご挨拶を岩田九州大学理事・副学長より賜りまして、最後に手一本を入れて、非常に一体感のあるフィナーレとなりました。

私自身、初めての参加ということと、幅広い年代の多くの大先輩方がいらっしゃるということで、楽しみな気持ちと交流を深められるか不安な気持ちが入り混じっていましたが、会が始まると不安な気持ちを持っていたことを忘れてしまうくらい、密度の濃い時間があっという間に過ぎ去っていきました。お話させていただきました先輩方に深く感謝申し上げるとともに、改めて、今後とも同窓生のつながりを大切にしていきたいと思う１日でございました。特に若手の先輩方にもより多くご参加いただけますように、微力ながら一層盛り上げていきたいと存じます。

橋本支部長（左）と福岡支部長賞をゲットした石橋さん（右）

末筆になりますが、忘年会の開催にあたりご準備ご支援いただきました方々、ご参加いただきました方々、誠にありがとうございました。2026年も同窓会のご発展および同窓生の皆様のご健勝をお祈り申し上げまして、令和７年度忘年会のご報告といたします。

福岡支部交流ゴルフ会、第77回コンペを開催！
～令和７年12月７日 伊都ゴルフ倶楽部

鹿島建設株式会社　九州支店
髙田　賢一氏
1993(平成５)年卒

令和７年12月７日、伊都ゴルフ倶楽部（糸島市）にて77回目の福岡支部交流ゴルフ会が絶好のゴルフ日和の中で開催されました。

歴史ある同ゴルフ会で優勝させて頂いた鹿島建設に勤務しております髙田と申します。

同会の優勝者に与えられる同窓会報への寄稿という栄誉（？）により当日の様子をご紹介させて頂きますが、乱筆ご容赦頂けると幸いです。

当日は12月初旬とは思えぬ陽気の中、古希を超えても一層お元気な大先輩の方々（最高齢は昭和42年卒）から平成20年代卒業の気力・体力が一番充実した世代（最若手は平成25年卒）の方々までの14組総勢53名が参加されました。最近は30代前半や女性の参加者も増え、本ゴルフ会も一層華やかになってきた気がします。

実は、私は1998年に弊社の大先輩に誘われ本ゴルフ会に参加した事があるのですが、その時の参加者は３組程度だったと記憶しているので、その時代に比べると近年の本ゴルフ会は大変な盛り上がりだと感じています。

開催会場の伊都ゴルフ倶楽部は、近年の酷暑ものともせず、いつ訪れてもグリーンの状態が非常に良く、当日もコース管理が行き届いた素晴らしい状態でした。

それに反して私の状態は、前日のラウンドでシャンクを連発しており、普段はあまり行わない「朝から練習場で50球」を行って臨んだという不安Ｍａｘでスタートしたラウンドでした。

ラウンド中は、同伴して頂いた昭和42年卒の柿本先輩、昭和57年卒の髙木先輩（九州経済調査協会）、平成２年卒の春日先輩（住友生命保険）からの優しいお声掛け等により、朝からの不安も解消され、気持ち良くプレーさせて頂きました。特に今回参加者最高齢の柿本先輩の非常に意欲的にかつ楽しそうにラウンドしている姿を目の当たりにし、私も将来はかくありたいと強く心に刻んだ次第です。

プレー終了後は、恒例となった参加者皆様からの「30秒スピーチ」による近況報告や会を盛り上げていこうとする決意表明、また経済学部同窓会福岡支部長の橋本先輩（昭和59年卒）からの「交流ゴルフ会も一層参加者を募り盛り上げたい」との閉会挨拶等により、九州大学経済学部卒業生の絆が築かれ、非常に盛会のうちに第77回福岡支部交流ゴルフ会は終了しました。

最後になりますが、大会運営事務局を担って頂いている堀さん（平成７年卒業）、池田さん（平成10年卒業）、永松さん（平成14年卒業）の九州電力勤務のお三方に感謝をしつつ、世代を超えた交流の場として本会が益々隆盛していくことを願って、第77回交流ゴルフ会のご報告とさせて頂きます。

リレー随想

出会いと運が紡いだ研究者への歩み

北九州市立大学
姉川　恭子氏

2009年に大学院修士課程へ進学し、途中ベルギーへの留学を挟みながら博士課程まで、合計５年半にわたり経済学府経済工学専攻でお世話になりました。2014年９月には早稲田大学大学総合研究センターの助手として採用されると同時に満期退学となり、その後２年を経て2016年９月に博士号取得を果たしました。早稲田大学では助教、講師を務め、2020年から２年間は東京工業大学（現・東京科学大学）に在職、現在は北九州市立大学経済学部経済学科にて准教授として勤務しています。

私の専門は教育経済学です。早稲田大学や東京工業大学在職時には、Institutional Research（IR）と呼ばれる、大学の政策的意思決定を支援するための学内データ分析業務に携わる一方で、自身の研究にも取り組んできました。現在は科研費の支援を受け、「運が主観的ウェルビーイングに与える影響」についての実証研究を進めています。人々が自らの「運」をどのように捉えているのか、いわば「運保有感」が、努力や希望といった心理的要因を介して、幸福感や生活満足度にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的としています。

こうした研究テーマとも重なりますが、九州大学経済学部に入学してから現在に至るまでを振り返ると、いくつもの「運に恵まれた」と感じる出来事が重なっていたように思います。大学院に進学したのは社会人１年目のことで、当時は社会人歴が短く社会人入試を受けることができず、一般入試での受験しか選択肢がありませんでした。法学部出身の私にとって経済学は未知の分野であり、大きな挑戦でした。

当時、「教育をより良くすることに何らかの形で関わりたい」という思いを抱きながら、進学先を検討していました。連日図書館に通い、「教育」という言葉を手がかりに多くの書籍を読み漁る中で出会ったのが、『教育を経済学で考える』（小塩隆士、2003年）でした。教育学系の書籍も数多く読みましたが、初学者であった私にとってこの本ほど腑に落ちるものはなく、「教育を経済学で考える」という視点に強い魅力と感じたことを、今でもよく覚えています。この本との出会いが、私にとって最初の大きな幸運だったのかもしれません。

大学院受験にあたっては、事前に指導教員へ相談に伺う必要があります。そこで出会ったのが、当時着任間もない講師であった浦川邦夫先生でした。専門の選び方も分からず、「教育に近いテーマが扱えそうだ」という、今思えば極めて単純な理由で研究室の門を叩きましたが、経済学の基礎知識も乏しい社会人学生であった私を一期生として受け入れてくださったことには、今も感謝の念が尽きません。後になって、浦川先生が小塩先生と共著論文を執筆されていたこと、さらに橘木俊詔先生とも学問的系譜を共有されていたことを知り、不思議な縁を感じたものです。

大学院在学中には、他にも多くのご縁に恵まれました。社会人学生として入学した同期の先輩方が共に博士課程へ進み、現在に至るまで定期的に集まりながら支え合えたことは、私にとって大きな心の支えでした。また、本稿執筆の機会をくださった磯谷先生をはじめ、三浦先生、そして折に触れて個人的な相談にも応じてくださった内田交謹先生など、多くの先生方から温かいご指導をいただきました。社会人入試制度がほどなく廃止されたことを思うと、あの時期に偶然同じ学び舎で学ぶことができたこと自体も、ひとつの幸運だったのだと思います。

大学院在学中のベルギー留学、帰国後に早稲田大学で教員としての第一歩を踏み出したこと、その後の東京工業大学、北九州市立大学への異動など、振り返れば人生の節目ごとに人との出会いや偶然に助けられてきました。紙幅の関係もあり、こうした回想はここでひとまず区切りとしますが、今後も多くの出会いと縁に支えられながら歩んでいくのだろうと、今は確信に近い思いを抱いています。

研究者としてはなお発展途上にありますが、浦川先生をはじめ、九大経済で出会い支えてくださった方々に、いつか何らかの形で恩返しができるよう、今後も研鑽を重ねていきたいと考えています。九州大学経済学部が、これからも多くの人にとって学びと出会いの場であり、次の世代に新たな幸運をもたらす場として発展し続けることを、心より願っております。

人物往来 ～退任

偶然に導かれて
ー変化のなかのベスト・エフォート

篠﨑　彰彦氏

2026年３月末に九州大学を退職しました。1999年４月に着任して27年間、学生時代を含めると30年以上、六本松、箱崎、伊都と３つのキャンパスでお世話になりました。九大では情報経済をテーマに教育と研究に携わってきましたが、大学を卒業してストレートに学者の道を歩んだわけではありません。15年間の長い「前史」がありました。そして様々な偶然に導かれて九州大学に着任し、今日に至ったというのが実情です。

1984年３月に経済学部を卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）に入行し、政策金融を舞台にプロジェクトファイナンスや調査、国際関連の業務に15年間携わりました。たまたま最初に配属になったのが情報通信分野の政策金融を企画･執行する部署で、当時は電電公社の民営化など新しい動きが起きていました。それから40年以上もこの分野に関わりを持つとは思ってもいませんでした。銀行では企業の財務分析のみならず、実査などを通じて多くの企業人から直接生の話を伺い、ミクロの目で経済の実態を知る経験を積むことができました。また、経済企画庁（現内閣府）に２年間出向した際は、経済白書の設備投資を担当し、マクロの目で経済分析を行い、政策に繋げていく現場を垣間見ることができました。国会待機や各省折衝で深夜勤務は当たり前でしたが、当時は「ブラック」と感じることはなく、各省庁や民間企業、諸団体から同じように派遣されてきた同世代の30～40人と文字通り「同じ釜の残業飯」を食べながら濃密な時間を過ごしました。

1993年から1995年まではニューヨーク駐在員として米国で経済調査する機会を得ました。ちょうどクリントン政権が誕生した直後で、停滞していた米国経済が情報化で見事に再生していく様子を目の当たりにできたのは幸運でした。最若手の駐在員でしたから、日本からの訪問者の送迎運転手、ホテル、レストラン、ミュージカルのチケット手配といったアテンド業務や庶務、経理、ローカルスタッフの人事管理など、細々とした日常業務にも時間を割きましたが、これも米国の実情を現場感覚で知る貴重な経験でした（そして九大着任後の研究室の切り盛りや事務職員との意思疎通に役立ちました）。帰国後は調査部と国際部で、それまでの経験を集大成するような仕事に従事し、官庁エコノミストやシンクタンクの研究者、大学の先生方と接点が増えるなかで、調査レポートや学術論文の公刊、共著書や単著を出版する機会にも恵まれました。それが、期せずして九州大学への着任につながったと思います。

九州大学での27年間を振り返ると、様々なことがありましたが、個人的には大きな節目となる４つの時期があったように思います。最初の６年間（1999～2004年度）は、大学院重点化や独立法人化に揺れた時期で、日付をまたぐ教授会など今では考えられない「激動」の日々でした。そんななか、先輩や同僚の先生方から寛大なご理解をいただき、ハーバード大学イェンチン研究所で２年間の在外研究に没頭する機会を得ました。おそらく、アカデミズムの経験を十分に積んでいなかった私に「しっかり修業して来るように」とのご配慮だったと思います（何人かの先生方から別々にそのようなお言葉をいただきました）。これを無駄にはできないと、決死の覚悟で脇目もふらずに研究に邁進し、学位論文となる著書を仕上げました。前後しますが、着任１年目にアメリカ経済学会で研究発表する機会を得た際は、旅費の工面等で右往左往していた私に親切に助言してくださる何人かの先生方がいらっしゃったことも本当に心強く、今でも感謝しています。発表したセッションはポール･ローマー教授が座長で、同行者がいない私のOHPシート投影を手伝ってくださいました。貴重な思い出です。この時期は、講座の変更や人事、設置審への対応等で、時には殺気立った空気が流れることもありましたが、それも含めて強烈な印象が残る「激動」の日々でした。

続く７年間（2005～2011年度）は「激務」の日々でした。大学改革が一段落する一方で、私が専門とする「情報化の経済効果」について世の中の関心が

一段と高まり、内閣府経済社会総合研究所や日本経済研究センターなどの研究機関から共同研究や社会人向け研修コースへの参画をお声がけいただきました。たまたま時流に乗っただけですが、多い時は福岡と東京を週に２、３往復することもあり、始発便と最終便でよく眠りこけていました。常宿にしていたビジネスホテルのフロントで「お帰りなさい」と言われたのには苦笑いしました。ノーベル経済学賞を受賞したローレンス･クライン教授らの研究グループと共同研究に取り組んだのもこの頃です。ショート･ノーティスのディマンディングな要請が続いたので、期限を遅らせてくれないかと打診したところ、「高齢のクライン教授は、手術で入院していた病院からＦＡＸで期限までに原稿を届けた」と言われました。これには敵わないと思いました。当時は政府の成長戦略づくりでも情報化が注目されていたので、中央官庁の仕事にも幾つか携わりましたが、周囲でうごめくジャーナリストの世界には、いろいろ深い淵があるのを垣間見て以来、政治とのかかわりには距離を置くようにしました。

その後の７年間（2012～2018年度）は、再び九大が揺らいだ時期でした。経済学研究院自体は、複数回に及ぶカリキュラム改革やビジネススクールの開設を経て安定軌道に乗っていましたが、基幹教育院構想を掲げた大学本部の強い意向が、部局の事情を超えて、いわば津波のように押し寄せました。ちょうどその頃に総長特別補佐を拝命し、本部の仕事に触れてみて、それはそれで何とも言えず奥深い世界だと思いました。中央省庁の世界でみる文部科学省の姿と、国立大学法人の世界でみる同省の姿との間に大いなるギャップを抱いたというのが本音です。並行して、既に長期計画で進行していたキャンパス移転が文系地区でもいよいよ現実となりました。コンピュータ室委員長や広報委員長を経験した関係で、それまで部局で管理していたサーバーの扱いをどうするか予め詰めておく必要があると考え、研究院長と相談して２つのことに取り組みました。１つは情報統括本部のホスティングへの移管です。メールアドレスの一斉切り替えなど具体的な段取りではかなり面倒なこともありましたが、若手の先生や助教の力添えで何とか対応できました。もう１つはHPの全面刷新です。箱崎時代のHPはいわば「増設を重ねた温泉旅館」の状態で、これを改良するという選択肢はなく、廃棄と新設を決断しました。かつては補助的な存在だったHPも、今や部局の運営で重要な基盤となっています。キャンパス移転の前後で一日の猶予もなく円滑に切り替えることが必須でしたから、かなり緊張しました。移行初日は後期授業の開始日でHPが最も利用されるため、無事に運用開始した時はホッとしました。

最後の７年間（2019～2025年度）は、コロナ禍で大学の在り方が一変した時期でした。キャンパス移転から１年経過した2019年度下期に、イタリアのヴェローナ大学からの招きで客員教授として現地に長期滞在する予定でした。フライトも滞在先もすべての段取りが整っていましたが、出発の２週間前にそのイタリアがコロナ禍で大変な事態に陥りました。現地の受け入れ教員と相談の上、泣く泣く中止しました。しかし、立ち止まってはいられませんでした。新学期からのオンライン授業に向けて怒涛のように対策を練りました。ＴＡを務めてくれた院生らと毎日ブレーンストーミングのディスカッションを行い、文字通り教員も学生から学ぶ姿勢で取り組みました。教育の情報化は私自身の研究に隣接する領域のテーマで、おそらく10年経っても進まなかったと思われる大学の全面的な情報化がわずか１～２カ月で実現したのは驚きでした。パンデミックを機に誰もがオンライン化せざるを得なくなり、それがゲームチェンジャーとなった歴史的な出来事でした。多人数の講義はオンライン授業が２年ほど続きましたが、同時に、政府の会議等も全面オンライン化となり、東京出張は数カ月に１回程度まで激減して、地元に張り付く時間が増えました。そこで、院生やゼミ生との少人数授業は、感染対策に細心の注意を払いつつ、希望者には対面授業を早期に再開し、時間割外の院ゼミも週に２コマ取り入れることにしました。ほとんどの学生が対面授業を希望し、院ゼミ参加を志願する学部生が相次いだのは意外でした。大学院に内部進学する学生が続くようになったのは、この時の濃密な付き合いが基盤になったのかもしれません。私が何より実感したのは、九大生は「自頭」だけでなく人としての「姿勢」も優れた人材が多いことです。現在は三菱総合研究所、アクセンチュア、デロイトトーマツ等々で活躍しています。今となっては、これが一番の思い出となりました。

それから、名誉教授の先生方をはじめとして同窓会のみなさまに関係することで、九州大学経済学会の運営見直しについて申し添えます。2024年に学会長を拝命し、中堅･若手の先生方に背中を押してもらいながら、いくつか積み残されていた懸案事項に取り組みました。それが、紀要への原点回帰やオンライン化など時代に合わせた改革です。戸惑われた

方もいらっしゃると思いますが、九州大学も経済学研究院も、時代の大きな流れの中で、能動的な変化が求められているようです。どうかご理解いただけますと幸いです。

以上、九州大学を退職するにあたり、自分自身の歩みを振り返りながら、つらつらと綴りました。一期一会という言葉がありますが、今日に至る私の足どりは、どれもはじめから意図したものではなく、いくつかの大きな出来事も、たくさんの小さな出来事も、ひとつひとつは偶然に巡り合ったことばかりです。時にはそれに振り回されつつも、何とかベスト･エフォートを積み重ねてきた年月でした。学生には常々「今の延長線上で成長しなくてもよい。変化することが大切だ。変化すれば、いずれ発展につながる」と話しています。もしかすると、それは自分自身への語りかけだったのかもしれません。その意味で、私自身を変化に導いてくださったみなさまとの出会いに感謝しつつ九州大学を去ります。

ありがとうございました。新任地でも気を新たにベスト･エフォートで精進します。

卒業祝賀会を開催

令和８年３月25日、経済学部同窓会主催による「卒業祝賀会」が開催されました。当日は雨模様の中ではございましたが、多くの卒業生、教職員、同窓会関係者が出席し、新たな門出を祝う和やかなひとときとなりました。祝賀会は二部構成で行われ、第一部「同窓生歓迎会」では、前田真一郎教授（経済学部同窓会事務局長）による開会の辞ののち、大西俊郎研究院長より卒業生への激励と期待を込めたご挨拶がありました。

また、松本浩一教授（「南信子」教育研究基金運営委員長）より南賞の授与が行われ、今回の受賞者である経済・経営学科の榎田堅大さん、河村勇希さ

東京支部（伊東信一郎支部長、青柳未央事務局長、水田晃斉理事）

ビンゴ大会

ん、経済工学科の池田幸央さんなど、それぞれの学びと研究の成果が称えられました。力丸美和先生よりQBSの取り組みと展望についての紹介があり、卒業生にとって学びの歩みを振り返る機会となりました。

第二部「同窓生懇親会」では、伊東信一郎東京支部支部長のご挨拶、田川真司福岡支部副支部長の乾杯により、活気あふれる開宴となりました。会場では歓談の輪が広がり、恩師や友人と卒業を喜び合う姿が随所に見られました。

今回の祝賀会には各支部から理事の皆さまにもご参加いただきました。関西支部からは凌雲翔氏（平成16年卒・関西支部事務局長）、池上慶悟氏（令和５年卒）、東京支部からは伊東信一郎氏（昭和49年卒・東京支部支部長）、青柳未央氏（平成16年卒・東京支部事務局長）、水田晃斉氏（平成24年卒）、福岡支部からは平井彰氏（昭和55年卒・福岡支部副支部長）、田川真司氏（平成２年卒・福岡支部副支部長）、嶋田正明氏（昭和54年卒）、藤吉由貴氏（平成14年卒）が出席し、世代を超えた交流が一層深まりました。

学生幹事によるビンゴ大会では会場が大いに盛り上がり、笑顔と歓声があふれました。九州大学男声合唱団コールアカデミーによるコーラスが披露され、力強く美しい歌声が会場を包み込みました。最後は学生歌「松原に」を全員で合唱し、凌雲翔関西支部事務局長による閉会の辞、そして平井彰福岡支部副支部長の博多手一本で締めくくられました。

終始和やかな雰囲気の中、笑顔あふれる祝賀会となり、卒業生の門出を皆で喜び合うひとときとなりました。今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

関西支部（凌雲翔事務局長、池上慶悟理事）

博多手一本　平井彰福岡支部副支部長

伊東支部長（東京支部）との座談会を開催

３月25日の卒業式祝賀会の前には、祝賀会に参加する東京支部の伊東支部長を囲み、就職活動中の在学生との座談会を初めて開催しました。

当日は、ANAホールディングス株式会社の特別顧問でもある伊東支部長より、ご自身の就職活動当時の時代背景や、入社後一貫して歩まれてきたキャリアについてお話しいただきました。

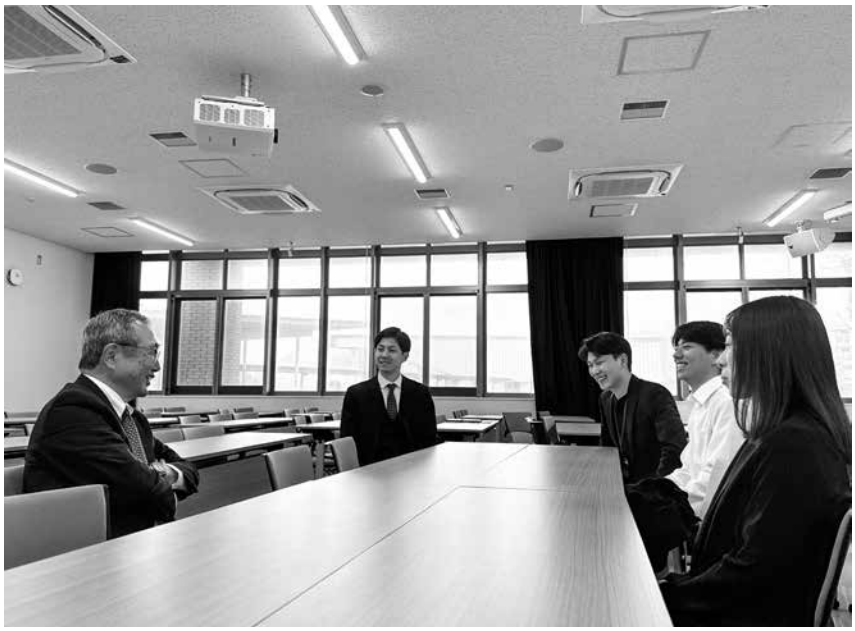
各ポジションでの苦労や、大切にしてきた考え方など、実体験に基づくお話に、学生たちは熱心に耳を傾けていました。

また在学生からは、「採用ではどのような点を見ているのか」「なぜANAを選ばれたのか」「一つの会社で働き続けてきたからこそ見えてきたこと」「ストレスやプレッシャーとの向き合い方」など、多くの質問が寄せられ、活発な意見交換の場となりました。

中でも、面接では“その人らしさ”や個性が伝わることの大切さ、そして視野を広げるために、同窓会などを通じて業界や立場を超えた人とのつながりを持つことの重要性についてのお話が印象的でした。

在学生にとっては、これからの進路やキャリアを考えるうえで、大きなヒントを得る機会となったようです。今後も同窓会では、卒業生・在学生の双方にとって身近で有意義な場となるよう、さまざまな企画を実施してまいります。

【東京支部事務局長　青柳（旧姓:井手）未央（平成18年修士卒）】



経済学部同窓会　創立50周年記念寄付金

寄付者様ご芳名（敬称略）

ご寄付頂いた方々のお名前と卒年を、匿名希望の方を除き掲載させていただきます。
心より感謝申し上げます。

名　前	卒年
花田　エバ	H23
山田　　勉	S35
梶原　裕志	S56
三島　敏行	S32
酒匂　利夫	S56
藤原香太郎	S47
廣瀬　　淳	S57
柳原　隆宏	H2
諸熊　健次	S49
樋渡　偉人	S47
冨田　和典	S55
下畠　英治	S57
松枝　繁生	S49
南里　一夫	S47
泉谷　洋子	S38
馬場羽香奈	R5
福澤　広行	H1
渡邉紳二郎	H8

名　前	卒年
安田　　茂	S48
杉　　哲夫	S43
野村　明広	S63
籾井　勝人	S40
長谷川勇士	R7
若松　陽菜	R5
福島　　洋	S52
鶴川　　洋	S45
福田　昂明	S44
板崎　智哉	R4
森枝　敏郎	S49
武智　　徹	H4
和智　俊諭	H14
大石聡一郎	H2
長　　克重	H17
森　拓二郎	S53
岡　　栄一	S60

名　前	卒年
山口　秀次	S60
天野瑠璃子	H22
富澤　義敬	S30
高木　俊二	H3
松原　武志	R4
羽地　重幸	S46
野村泰一郎	S37
山本　英生	H9
青柳　未央	H16
大西　俊郎	教員
守部　　尚	H15
瀧口　健治	S59
松尾　千里	R7
辰巳　吉雄	H5
神山　竜兒	H12
宮本　義三	H3
古川　昌利	H3

令和８年３月末現在

当期間：寄付金額　829,000円・寄付者数　73名
累　計：寄付金額　9,073,390円・寄付者数 751名
（令和８年３月末まで）

創立50周年記念寄付金の御礼とご報告

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より同窓会活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、創立50周年記念寄付金につきましては、令和８年３月31日をもちまして募集を終了いたしました。
その結果、751名の皆様より、総額9,073,390円のご寄付を賜りました。
ここに謹んでご報告申し上げますとともに、心より御礼申し上げます。
皆様からお寄せいただきましたご厚志は、今後の同窓会活動の充実および発展のため、大切に活用させていただきます。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

経済学部同窓会会則

（名称）

第１条　本会は九州大学経済学部同窓会と称する。

（目的）

第２条　本会は会員相互および母校との親睦・交流ならびに九州大学経済学部の充実、発展をはかることを目的とする。

（事業）

第３条　本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

⑴　講演会、懇親会の開催

⑵　卒業生名簿の発行

⑶　会報の発行

⑷　その他本会の目的を達成するために必要な事業

（本部並びに支部等）

第４条　本会は本部事務所を九州大学経済学部内（福岡市西区元岡744）に置く。

本会は東京、関西、福岡にそれぞれ支部を設置し、これ以外の地区には、活動状況に応じてそれぞれ地区同窓会を設置する。支部ならびに地区同窓会に対しては、運営の一助として運営費を支給することができる。

（構成）

第５条　本会は次の者を以って構成する。

⑴　九州帝国大学法文学部経済科卒業生

⑵　九州大学経済学部卒業生

⑶　九州大学大学院経済学研究科・経済学府修了者および単位取得者

⑷　九州大学経済学部および大学院経済学府在校生

⑸　九州大学経済学部・大学院経済学研究院教員および旧教官・教員

⑹　上記に準ずる者で、理事会の承認を得た者

（役員）

第６条　本会は次の役員を置く。

理事25名以内、評議員各卒業年度最低１名、監事２名、顧問若干名

２　理事のうちから会長を１人、副会長を若干名選任する。

３　役員の任期は３年とする。ただし、重任を妨げない。

４　⑴会長は本会を代表し、会務を総理する。

⑵副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

⑶理事については別に規定する。

⑷評議員は、各地区、各卒業年度の会員に対する本会運営上の窓口となるほか必要に応じて理事会に出席し、意見を述べることができる。

⑸監事は本会の会計を監査する。

⑹顧問は理事会の推薦により会長がこれを委嘱する。なお、会長の要請がある場合は、顧問は理事会に出席して意見を述べることができる。

（理事ならびに理事会）

第７条　理事は、理事候補者の中から、総会において選任する。そのため、本部ならびに各支部は、それぞれ支部役員、経済学研究院教員の中から若干名の理事候補者を推薦し、本部に届け出る。理事候補者の選任は、本部及び理事会で決定する。

２　会長、副会長、理事を以って理事会を構成する。

３　理事会は、本会運営上の重要事項を審議決定し、総会に提案する。理事会の議長は会長とする。

（総会）

第８条　本会は毎年１回通常総会を開催する。通常総会の開催場所は、福岡、東京、福岡、大阪、福岡の順に、各支部総会の開催に合わせて開催することとする。ただし理事会が必要と認めたときは、臨時総会を開くことができる。

２　通常総会では次の事項を承認する。

⑴予算および決算に関する事項

⑵役員の選任、会則の制定および変更に関する事項

⑶その他本会の運営に関する事項

３　総会の議事は、出席会員の過半数を以ってこれを決定する。

（運営）

第９条　本会の経費は会員の会費、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。会員の会費は理事会の定める会費規定ならびに会費規定細則による。

（会計年度）

第10条　本会の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年の３月31日に終わる。

（個人情報の保護）

第11条　本会は、会員の個人情報を取り扱うにあたり、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）及び個人情報保護指針・ガイドラインを遵守する。

２　本会は、同窓会活動の目的の下、九州大学経済学部同窓会個人情報保護指針に従い、同窓生の個人情報を適切に取り扱うものとする。

（設立年月日）

第12条　本会の設立年月日は昭和50年10月４日とする。

※会費規定

１．会費は45,000円とする。

２．会費は入学時または卒業後に徴収する。

３．必要に応じて臨時経費を徴収することができる。

４．会費規定は理事会の議により変更することができる。

※会費規定細則

令和７年９月まで存在した普通会員については、会費の支払いが45,000円に達した段階で以後の支払いは不要とする。

会費は一括払いまたは３分割または６分割による分割払いのいずれかによって払い込む。なお、第５条の⑷について、入学時に一括納入する場合には、特別割引価格を定めることができるものとする。

①会　費	一　括	45,000円	
②　〃	３分割	15,000円×３回（1.5年間で納入完了）	
③　〃	６分割	7,500円×６回（３年間で納入完了）	

附　則

本会則は、平成 ８年10月11日に改定され、同日より施行する。

本会則は、平成18年 ２月10日に改定され、同日より施行する。

本会則は、平成30年10月 １日に改定され、同日より施行する。

本会則は、令和７年10月１日に改定され、同日より施行する。

九州大学経済学部同窓会歴代会長

初　代　田中　　定氏（昭和50年10月４日～）（３期８年）
第２代　森下　　弘氏（昭和58年２月４日～）（１期３年）
第３代　岡野　正實氏（昭和61年10月24日～）（２期６年）
第４代　谷川　大介氏（平成４年10月９日～）（１期１年）
第５代　渡邉　彦士氏（平成５年７月７日～）（１期３年）
第６代　福岡　道生氏（平成８年10月11日～）（１期３年）
第７代　吉田　清治氏（平成12年２月10日～）（１期２年）
第８代　森山　靖章氏（平成14年５月31日～）（１期３年）
第９代　平山　良明氏（平成17年７月７日～）（１期３年）
第10代　池田　弘一氏（平成20年７月７日～）（２期６年）
第11代　貫　　正義氏（平成26年７月７日～）（３期９年）
第12代　道永　幸典氏（令和５年７月７日～）

同窓会からのお願い

会費の納入をお願いいたします

平素より同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
同窓会では、今後の活動のさらなる充実、在校生への支援、会報の発行などを継続していくため、
卒業生の皆さまに会費の納入をお願いしております。
ご負担を少しでも軽減いただけるよう、会費は分割での納入も可能です。
下記のいずれかの方法でお手続きくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

① 一　括　45,000円
② ３分割　15,000円（1.5年間で納入完了）
③ ６分割　 7,500円（３年間で納入完了）

- 平成18年（2006年）３月末までに旧同窓会規定の終身会費をすでに納入いただいております皆様は、そのまま新同窓会規約の会員に移行しております。
- 令和７年（2025年）９月まで存在した普通会員については、会費の支払いが45,000円に達した段階で以後の支払いは不要となります。
- 分割払いされます方は、半年ごとに３回または、６回続けてお振込みいただきますようお願いいたします。
- 会費納入や住所変更等のデータは、令和８年（2026年）３月31日で集計しました。

ご住所やお名前などに変更が生じた場合は、すみやかに下記の同窓会事務局までご連絡ください

九州大学経済学部同窓会事務局　（開室：平日　10時～17時）
〒819－0395　福岡市西区元岡744　九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561／FAX 092-802-5560／E-mail：dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
経済学部同窓会ホームページ　http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4

経済学部同窓会の財政は変わらず厳しい状況です。
ぜひとも、ご寄付、協賛広告のご協力をお願い申し上げます。
お申し込み、お問い合わせは、上記事務局までご連絡ください。